



NPO日本朗読文化協会

朗読ニュース

2015年春号

第7回朗読アラカルト



伊吹よし子



永沢淳美



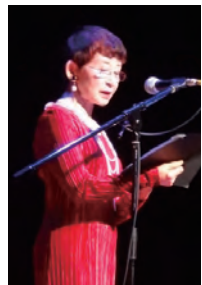
山元智子



小川弘子



深澤真理子



石井雅子



ヒルズサロン朗読会



第88回八重洲朗読会



かもめ・九段下幼稚園

子ども達のきらきら輝く瞳に引き込まれ、
感受性に感動し、
読み聞かせの楽しみは、
どんどん膨らんでいきます。

○ 新年のごあいさつ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆様にとって素晴らしい1年でありますよう心よりお祈り申し上げます。
本年も、会員皆様のご要望にお応えできるよう、努力してまいりたいと存じます。

今年前半は3月チャリティ朗読会、4月ペアテ若き日のエポック、
6月『朗読の日』と朗読公演が続きますので
是非ご来場くださいますようお願いしております。



理事長 城所ひとみ



朗読名誉会長 加賀美幸子



運営委員長 阿部俐奈



事務局長 山田和雄

○ 朗読アラカルト ～実行委員は語る～

当日は、夕方より初雪がほんの一時赤坂のコンクリート道にしっとり潤いを与えてくれました。参加者も早々に集まり、人気の凄さに驚いた。レッスンに励み、自分を高め、舞台上で発揮できる喜び。私達委員は成功させる為に努力した。今回は3部構成の最後はカーテンコールで華やかに終了する事にした。出演前、演出家の細やかな注意、励ましの言葉で皆一瞬にて緊張感が和らぎ、和気あいあいと舞台に向かう事が出来、更に柔らかく自然な照明、音響で素晴らしいステージとなった。また、当日は衆議院選挙投票日。投票にいらした方を会場に誘導したお蔭もあり、170名の来場者。朗読を初めて聞く方が、最後まで楽しんで「朗読の良さを知ることが出来た。ありがとう」と一言。嬉しい感想を戴け、心から感謝する出来事だった。大きな拍手と感動を与える喜びを活動力として「朗読アラカルト」、今後もぜひ参加、応援をよろしく願い致します。(実行委員長 安田綾子)



チラシデザインは初めての経験でした。今迄とは一新した物をとの要望になんとかやり切る覚悟を決めました。エネルギー、希望、爽かさ、デザインはすぐに閃きました。そよそよとそよぐ虹色のカーテンにアラカルトの文字の窓枠。眼差の先には凜と立つ双葉…そう大空に向かうあなたです。自分らしく精進し、ずっと煌めいてほしい。そんな願いを込めて作りました。チラシ作りも、会が無事に終わりました事も会員みんなが一緒に力を合わせて出来た事と改めて思いました。そしてこの様な素晴らしい仲間の中に入れられるのを大変嬉しく思います。(小黒三重子)

昨年実行委員だったが、今年は出演者兼任で。不安はあったが「やるっきゃない」と前向きになれた事のひとつには、実行委員のチームワークのよさがあったと思う。顔を合わせて本音で話し合い、お互いの弱い所をカバーしあえた。申し訳ないと思いつつも私は2部から後、出演者へと完全変身させていただいた。昨年より遅れてスタートしても先輩が作った「公演報告」があったので調整ができ、不安がなかった。自分も他人も信じられると人は強くなるものかも知れない。運営委員長をはじめ、お手伝いスタッフ含め全ての方々に感謝です!(川口和代)

12月14日の「アラカルト」公演のお役を引き受けて、私どもスタッフが始動し始めたのが、9月上旬でした。まず、チラシ作りから大モメ(?)に揉めて、決まったのは9月下旬だったと記憶しております。30名の募集はあっという間に埋まり、今度は出演順にも頭を悩まし、やっとプログラムが出来上がりました。11月上旬に演出家の飯田さんのご指導で本読みも無事に済み、当日お手伝い頂ける会員の皆様も快くお引き受け下さいました。後は、広い会場への観客動員が課題でしたが、お蔭さまで大勢のお客前で、これも私どもの拙い力にご援助して下さった皆様のお蔭と心から感謝しております。(三上実枝子)



宇都宮から

青木ひろこ

今年も朗読の日々が始まりました。昨年は30本ほどの朗読会をさせていただきました。年頭の「朗読としての笛で紡ぐ百人一首」はNPO日本朗読文化協会の加賀美先生の講座で学ばせていただいた百人一首を和歌の都、宇都宮によせて、地元の和紙灯り作家、鎌田泰二氏と共にお届けしました。また大谷石蔵ギャラリーでのSYUGORO READINGS(山本周五郎作品の連続朗読)や平成13年から毎年続いた県総合文化センターでの宝生流謡曲とのコラボによる能の物語、リーディングカフェのシリーズ等も回を重ねております。

こうした機会を通して様々な演奏や美術作品とご一緒、沢山のアーティストの方々とのお幸いな出会いをいただき感謝です。秋には市の中心街にある妖精ミュージアムでアイリッシュハーブやアコーディオンの音色に乗せてケルトの物語、ねんりんピックでの栃木の詩人展、柴田トヨと相田みつをの詩の朗読、鬼怒川での月あかり花回廊、そして、地元宇都宮まちづくり推進機構主催の石蔵音楽会等、いろいろなジャンルにチャレンジしています。これから先、100年後、今度は次世代の方々がワクワクする朗読文化と出会えるよう、みなさまと共に一步一步、地道にとりくみ続けていきたいと思っています。

新聞に掲載されました!

版画にちなんだ小説朗読

さくらの書店で「カフェ」

「さくらの書店」が主催する朗読活動の「版画にちなんだ小説朗読」が28日、櫻の書店「bis」で開かれた。青木さんは小劇場での演劇活動などを経て朗読ユニット「Te recite」を主宰。朗読教室での指導や朗読会の企画演出などに取り組んでいる。夫のただすさんは宇都宮美術館館長で、日本版画院同人。小説も執筆している。

今回の作品は、ただすさんが「版画の向こう側の物語」として情報誌に連載した小説で、フランスに留学した日本人とコロロンシア人の恋を描いた「麗根恵津屋」。双子姉妹の結婚をめぐる家族愛がテーマの「麗根の母」、路上生活者とその恩人の関係がテーマの「麗根の母」が描かれている。また同日は28日まで、風景などを描いたただすさんの木版画展も展示している。問い合わせは同店028・6882・7001(高藤泰弘)。



仙台から

長野淳子

私は主に仙台を中心に朗読活動をしています。昨年は朗読劇「悪女について」の1月の横浜公演に始まり、11月の仙台公演まで、朗読劇「悪女について」で明け暮れた、充実した一年でした。この「悪女について」は、今年4月に秋田の安倍眞寿美さんが主宰する「ひいらぎの会」でも上演予定で、私は、仙台から出演させて頂くことになっていて、今からとても楽しみにしています。又、昨年は『赤毛のアンと村岡花子の世界』と銘打って、東京の洗足池図書館と、私の母校である、仙台白百合学園大学の大学祭で朗読をさせて頂き、どちらも満員御礼で嬉しい限りでした。お陰様で、震災の年の9月から始まった、カルチャー倶楽部での「大人のための朗読講座」も「初級者」と「経験者」の2クラスになり、それぞれに作品を読み込みながら、楽しく進めています。昨年9月からは、この講座の受講生が中心になって、高齢者施設に月1回「朗読ボランティア」に伺うことになり、お客様からの「毎回楽しみにしています」という声に励まされ、朗読しています。更に、シティFMラジオでの2つの「朗読番組」も4年目に入りライブワークにしている「向田邦子」の作品朗読も続けています。「朗読」は、本当に奥深い世界ですが、「文字に声で命を吹き込み生きた言葉にする朗読」をこれからも続けていきたいと思っています。



アラカルト ～出演者たちの声～



岡田久美子 ● 2013年4月河崎早春教室のメンバーに加えていただき、翌14年から会員として皆様のお仲間に入れていただき居ります。何も判らぬまま『朗読の日』はグループで、またアラカルトにも初参加させていただきました。本番に体調を含めコンディションをピークに持っていき、集中力ある舞台をすることの難しさを痛感しました。「芸の上手いといふも下手といふもほんの僅かな差である。その差は決して技巧の差ではない。その人の人柄からくる無技巧の差である」～大河内伝次郎～無技巧の差、を心に留めつつ、更に楽しみながら学びを続けて行きたいと、願っています。



宮尾壽里子 ● 12月14日、緊張と寒さに震えながら会場に向かいました。2回目の参加ではございましたが、お世話下さるスタッフの御心遣い、舞台裏であれこれ指示して頂く安心感などに支えられ、無事終えることが出来ほっと致しております。友人から「1部から3部まで気が付けば聴いてしまい、とても楽しかったわ!」という言葉を受取ったことが何より嬉しいことでした。朗読は元より、楽屋でのひとときなど心暖まる思い出深い日となりました。



中田真由美 ● 「金子みすゞ」の実弟(上山 正祐)が設立した劇団若草で、約30年程前、私は第一回目「金子みすゞ」公演(上山先生演出)に出演させていただきました。その頃は、まだ「みすゞ」の知名度も低く、私も「みすゞ」の事を深く知り尽くせないまま公演を終了してしまいました。今回アラカルトで、また「みすゞ」の世界を皆様に伝えられる機会を与えていただき、かつての思いや、お世話になった恩師を胸に、「みすゞ」の世界を朗読出来た事は、私にとってこの上ない出来事でした。今後は、色々な作品にも触れ、表現力に磨きをかけて朗読を楽しんで行きたいと思えます。



杉浦貴子 ● 雰囲気のあるBGMが流れ出し、スポットライトにふんわりと照らされ、マイクの前でどきどきしながら私は物語の主人公になっていました。初めての朗読アラカルトの出演。大きな舞台で一人で朗読する経験は、今まで私が経験してきた、小さな会場でマイクを使わずに目の前のお客様に聞いていただく朗読会とは、一味もふた味も違っていました。作品は、辻邦生作、花のレクイエムより「クリスマスローズ」。あっという間に物語のおしまいが近づき、お話の内容にぴったりのジングルベルの音楽が鳴り出すとともに、最後の一字を読み終え、ほっとして笑みがこぼれました。貴重な体験ができ、また機会があればチャレンジしてみたいという前向きな気持ちになりました。



那須俊子 ● 2011年の朗読アラカルトで私が朗読した作品は星新一の「おーい出てこい」でした。その年は東日本大震災という悲しい出来事があり、こんな痛ましい事故がこれからは起きないように…と願いを込めて朗読しました。小泉八雲の「生き神」も朗読したい作品でした。この作品は津波という言葉の世界に広める契機になりました。そして私はすっかり八雲の文章の虜になってしまいました。という次第で今回は小泉八雲の怪談「葬られたる秘密」を朗読しました。(怪談と言ってもそんなに、おどろおどろしくはありません。) 美しい一人の女性が若くして死亡し幽霊になり現れますが…とても可愛いロマンチックなお話です。作品選びは、大変難しく、また楽しいものだと思います。



朗読あ・れ・こ・れ ～新会員は語る～



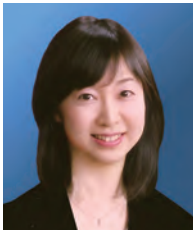
中西未友樹●私は声優やナレーターなどといった声の仕事に憧れており、今年度から大学と並行して養成所にも通い始めました。「どんなに何気ない台詞にも意味がある。捨てていい文字など一文字もない」。講師が繰り返すこの言葉の意味が、作品を表現しようとすればするほどに沁みてきます。台詞でもナレーション原稿でも、「綺麗に」読むことが目標なのではなく、キャラクターや商品、あるいは作品そのものの魅力をどれだけ伝えられるかが大切だ——言うだけならば簡単ですが、実際はずっと複雑で、繊細に意識を巡らせる必要がある。この味わい深さの虜となってしまっています。私の表現が、聴いてくださった方の心の琴線に触れて、癒しになったり力を与えられたりする。そうなれるよう、またそうあり続けられるよう、精進いたします。朗読は初心者ですが、よろしく願いいたします。



田中隆臣●朗読文化協会の朗読との出会いは、2014年3月朗読ボランティアグループ「かもめ」公演の観劇からでした。その数カ月前に体調を崩して2回ほど手術のため入院し無事に健康回復したのですが、心はまだ疲れておりました。 ですが「かもめ」公演を観劇して元気を頂きました。10年以上、表現活動から離れておりましたが、せっかく助かった命なので身体が動くうちに少しでも活動したいと思っていますと・・・協会の会員の方や関係者の知人の方に出会い、お話を伺って秋から入会いたしました。協会の先輩方から勉強をさせていただいて地元で朗読ボランティア団体を設立したいと思っています。朗読を通して多くの方とめぐり逢いたいです。



長谷直美●朗読を学び12年が経ちました。お客様に聴いて戴く機会もありましたが、自分では「良かった」と心から思ったことがありません。結果を決めるのはお客様だからなのでしょう。嬉しい感想を戴いても、「胸に、心にちゃんと届けられたかな?何かの役に立てたな?」という想いは残ります。この冬、私は33年を暮らした東京を離れ北陸の実家へ移る事になりました。若い頃には全く興味のなかった故郷の歴史や文化、また母から聞く昔の思い出話に感慨深いものを抱きます、その頃、人々はどんなことを思いどんな暮らしを紡いで来たのだろうと。そして今、この故郷の人々と朗読を通じて時間(とき)を共有し、心の交流が出来たら・・・そんな思いが生まれています。



吉田菊子●ある3月の晴れた日、私はいつもの書店で、平積みの本を手にとった。ふんわりしたパステルカラーの表紙。パラパラとページをめくり、とても心が惹かれ、一冊買い求めた。翌日も日差しが温かいありきたりの午後、のはずが・・・東日本大震災が起こった。前日手に入れた本を、何度も読む。柴田トヨさんの「くじけないで」。明治、大正、昭和、平成と一世紀を生き、関東大震災やB29の大空襲を乗り越えたトヨさん。そのトヨさんが、被災した方々に詩を書き、自ら朗読した。相田みつを美術館の「柴田トヨ展」の映像で、その声、その姿に接し、涙が溢れた。人の心に寄り添う朗読とは・・・深く考えさせられた。2011年のことである。



Fumiyo Selner●ごく気ままな気持ちで入会した朗読協会から新会員紹介欄への原稿を出して下さいと頼まれた。さてはと私は困った。此の40年アメリカ暮らしだ。私の日本語は大分おかしくなっている。まして文を書くなんて私の出来る技ではない。勿論日本の本もほとんど読んでなかった生活だ。だからといって英語の本を読んでいた訳でもない。でも大昔ある小さな女子高の放送部に所属していた。ある朝担当の先生に渡された原稿をよみ、悪夢をアクユメと読み先生に苦笑された。そんな恥をかくような失敗談もあったが、高校卒業迄放送部で活躍した。東京都の高校生朗読コンテストにも参加して、屋根の上のサガンというのを讀んだ。さ行の発音の苦手な私は、幾度も其の発音の練習で苦労したものだ。



茂呂久美子●20年以上も前になるが、演出家の故木村光一氏が全国に向けて発信した「この子たちの夏ヒロシマ・ナガサキ1945」上演呼びかけに応じ、栃木の有志達と、そのステージに立ったのが初めての朗読劇。熱心なH先生の半年に渡るご指導の下、それまで舞台とは無縁だった主婦達が、その悲惨さ、あふれ出る家族への思いを、全身から放たれる声で朗読し、その中で一番年下の私は、ただもう圧倒された。その世界をしっかりと受けとめ、自分自身が心を働かせ感じていかなくては何も生み出せない— ついつい自分に甘い私にとって、貴重な朗読原体験となった。

瀬戸内寂聴 訳「源氏物語」



源氏物語 上原まり

瀬戸内寂聴 訳

千年前の王朝の世界へ誘います

- ◆ 空蟬・夕顔 KICG15070
- ◆ 明石・松風・薄雲 KICG15071
- ◆ 若紫(上・下) KICG15072
- ◆ 紅葉賀・花宴 KICG15073
- ◆ 葵(上・下) KICG15074
- ◆ 玉鬘(上・下) KICG15075



好評発売中

CD全6タイトル 定価・各2,000円(税込)



源氏物語

瀬戸内寂聴 訳

心と心が響きあう朗読の魅力

- ◆ 朗読・NPO日本朗読文化協会
宮崎弥生・秋山雅子・岩瀬弥永子
福田雅世・飯島晶子・安倍真壽美
坂本有子・加藤敬子・松島邦

- (Disc 1) 桐壺 ①末摘花
- (Disc 2) 藤壺 ②朧月夜
- ③空蟬 ③六条の御息所
- ④夕顔 ④明石
- ⑤若紫 ⑤源氏物語の魅力 (お題 瀬戸内寂聴)

好評発売中

KICG-5068~69 CD2枚組 定価3,000円(税込)

【第42回】日本レコード大賞[企画賞]受賞作品!

昔話ふるさとへの旅

21世紀へつなげたい「ふるさとの昔話」。全国47都道府県を地元の言葉で現地録音。

全47タイトル 好評発売中 各定価¥2,000(税込)



【CD全47タイトル】KICG-3181~3227 ジャケット表紙絵：鈴木ひろえ

温かく、優しく迎えてくれる「ふるさと」がいっぱいあります。

市原悦子さんのナレーションで始まる「昔話」。

7年の歳月をかけて現地の語り手によって、生の声を現地収録いたしました。貴重な伝承文化遺産である「昔話」は、大人や子供達にとって大切な「心のふるさと」です。

7年の歳月をかけて現地で収録した全国47都道府県の「ふるさとの昔話」の数々。かつて「昔話」は、子供達への楽しみや教訓、日常生活意識を反映しながら語られて来ましたが、情報文化の発達した今日、「昔話」は大変貴重な日本の伝承文化財産となっています。このCDでは全国のそれぞれの地域に昔から伝わる「昔話」を中心に、現地の語り手によって地元の言葉で現地収録しました。大人や子供達にとっていつまでも「心のふるさと」として、今後私達の生活の中で育まれていきますことを、心から願っています。

美しい 日本語

全65タイトル好評発売中!



美しいことばと豊かな心

Roudoku Series

朗読CDシリーズ心の本棚

【第一弾】 【第二弾】

CD全15タイトル 各¥2,000円(税込) CD全15タイトル 各¥2,000円(税込)

【第三弾】日本の詩歌

CD全15タイトル 各¥2,000円(税込)

【第四弾】名作を聴く

CD全10タイトル 各¥2,000円(税込) / 2枚組各¥3,500円(税込)

【第五弾】日本人のこころと品格

CD全10タイトル 各¥2,000円(税込)

詳しい資料をご希望の方は キングレコード株式会社 〒112-0013 東京都文京区音羽1-2-3 ストラテジックマーケティング本部 制作第二グループ 03-3945-2119

キングレコードの朗読CDはお近くのレコード店でお求め下さい。又は下記へ直接お申込み下さい。

●下記によるご注文の商品の送料(¥600)はお客様のご負担となります。

フリーダイヤル 0120-340-670

インターネット <http://www.kingrecords-eshop.jp> (キングレコード・イー・ショップ)

KING RECORDS

FAX 03-3945-9086

ハガキ 〒112-0013 東京都文京区音羽1-2-3 キングレコード(株)内キングダイレクトアクセス行

*キングレコードの情報は <http://www.kingrecords.co.jp>

h!ramaTV